

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 名古屋こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 新田 翼

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 櫻井 宏次

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝される こどもの未来をはぐくむ人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学園のミッション・ビジョン実現に向け、以下を全教職員で決意した

・社会で活躍・必要とされる人材を育成

1)現場が求める人材を追及する

2)基本に忠実に徹底する(挨拶・掃除・報連相・体調管理)

3)実習指導授業の実習時期に合わせたシラバス作成

4)実習指導授業担当者会議の実施

5)学年主任制を設け、週1回学年会を実施し、業務体制を強化

② 学校関係者評価委員会コメント

保育士不足のこの状況下で、量と共に質の強化に学校全体で注力している点が職員や学生を見て伝わってくる。技術も大事だが、技術以上に心構え(人間力)が保育業界では必要となるため、一丸となって頑張ってもらいたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学校内の取り組みが定期的に保護者に向けて発信がなされていない
教育理念である「技能と心の調和」の心の部分を強化する必要がある

② 今後の改善方策

保護者への連絡は「スタディサプリ」の登録を依頼し、定期的に発信をしていきたい

⇒保護者全員に登録してもらうためには、どうすべきなのか検討

前期末と後期末の年2回、担任より成績表と併せてクラスの取り組みや課題などを記載して発送している
「心」の部分（挨拶、掃除、思いやり）を重んじて、社会に出る実習や就職に向けて一貫した指導を行い、
全教員で習慣にさせていく必要がある

③ 特記事項

学校の理念・目標は入学前オリエンテーションならびに保護者会にて提示

入学後、スタートアッププログラム（新入生研修）を3日間実施し、個々の目標設定と管理を徹底している
校内及びクラス内に学校に理念・目的・育成人材像の記載されたポスターを掲示

④ 学校関係者評価委員会コメント

園によっては出欠などのアプリを導入している。願書出願の際に登録してもらう。

→登録の必要性を作り、登録などの斡旋を促している（現在は全員登録している）

発信する情報の質とスピードに拘るともっと浸透するのではないかな。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

園との関わりは巡回訪問を通して関わりは増えているが、地域との関わりが弱い

② 今後の改善方策

キッズルームを有効活用し、地域貢献と情報公開を行う

⇒夏休み中も開催し、様々な学生との触れ合いを大切にする

保育発表会(2月)にも参加いただけるよう促していく

③ 特記事項

昨年度2月上旬に「こどもまつり」を開催した。地域のお子さんたちが楽しめる内容を各クラスごとで出し物を用意し、地域貢献ならびに学生のためにも実習へ行く前の模擬体験を行えた

「スタディサプリ」という情報システムを導入しており、情報を正確且つ迅速に行っている

校務分掌に統括チーフを配置し、細かいチェックを行っている

各教科ごとに教科チーフを配置し、教科会等で意見の吸い上げや授業のすり合わせを行っている

年に3回、全体会を開催し、全教職員の意識統一を行っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

また教員が手書きでの手紙をポスティング、保育園の関係機関の方々との意見交換会(運営委員会)の実施の場で地域の方にも参加をいただいている園もある。

ネット社会になっている昨今、HP掲載は1週間に1回以上の更新などの取り組みを行い、周知・認知活動を行っている。

ICT教育の導入と新聞への掲載や記者とのネットワークなどへの取り組みも実施している。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

園との構築や教育の質を見直し、現場に求められる人材育成に努めていく

② 今後の改善方策

実習生の取り組む姿勢(礼儀・マナー)の向上、実習中のメンタルケアが必要
エリア担当中心に現場の方との接点をもてる機会を大切にする

③ 特記事項

授業にAL(アクティブラーニング)を取り組み、受動的な授業ではなく能動的な学習を行っている

⇒個人ワーク、グループワーク、発表など

半期ごとに授業アンケート、担任アンケートを実施、卒業クラスには卒業生アンケートも実施し、授業の改善や一貫性のある指導へつなげている

人材育成としてOJTを定期的に実施

各教員の授業見学に力を入れ、幅広い知識を高めている

職員の研修は役職、年次別に定期的に開催している(自主研修含む)

学生向けの園活動によるアルバイトやボランティアなども実務経験として促進している

学校行事にも力を入れており、各行事の委員を設定し、統率力や協調性を身に付けさせている
クラス会議を学年、学科別に開催し、クラスの課題や個々への対応など話し合っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

現代の若者に共通している部分として精神的に弱い学生や叱られ慣れていない学生が多くなってきている。

→「認める・聞く・一緒に考える」方法を取り入れて実習生だけでなく教職員の育成も行っている

また、実習生に関わらず、指示待ち人間が多くなっている為、言われなくても、気づき感じ行動できるような人材育成が必要。

実習を通して何がしたいか、具体的行動までを考え行動できるようにする

→学校での指導・取組後に送り出していく

実習生を受け入れる事で、担当教員のマネジメント能力を上げていく事にもつながっている

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

精皆勤率の向上と退学率の低減

年内就職率 100%に向けての取り組みを見直し

卒業生とのつながりが希薄

研修中、ならびに早期離職を防ぐ

② 今後の改善方策

社会人育成の場として自立に向けての指導を強化

⇒礼儀、マナー、社会人としての心構えなど

就職対策の授業内容強化(履歴書添削、面接講習会、内定までの流れ、電話の受け答えなど)

オープンキャンパスに卒業生として参加

実際の園の厳しさを伝えつつ、忍耐力・精神面を鍛えるような取り組みが必要

③ 特記事項

就職率 97.2% (h29.3.31 現在)

企業内保育会社説明会の実施(6社)

私立幼稚園連盟の説明会を実施

スクールカウンセラーの設置

公認モチベーション・マネージャー資格エントリーコースを開催(2年次)

④ 学校関係者評価委員会コメント

実習と就職の担当が別の学校もあるが、園からのねらいに対しては実習・就職担当者が同じであることは離職率の低減にもつながる

保護者や地域の方々と関わる中で重要な項目としては、挨拶や笑顔、マナーなどとなる為、養成校でも社会人育成として礼儀やマナーなどの学生指導に重点をおくことは必要である

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・保護者との情報連携の頻度、質の向上
- ・卒業生の就職後の状況把握

② 今後の改善方策

- ・スタディサプリを用いた定期的な情報発信により、学校教育への理解を図る
- ・年度始め、通知表発送時にクラス担任が作成した文書を送付する
- ・エリア担当の教員が卒業生就職園への訪問を通し、卒業生の状況把握を行う
- ・同窓会組織の運営により、卒業生同士の交流の場を設ける

③ 特記事項

- ・エリア担当教員制を設けることで、実習・就職サポートをエリアごとに実施
- ・キャラバン隊や保育系企業を招いての就職ガイダンスを実施
- ・体調不良時に使用できる保健室の設置
- ・カウンセラーの設置、学生の希望により定期的に話をすることができる環境がある
- ・保育園、幼稚園、学童等からいただくボランティアやアルバイトの斡旋を行っている
- ・高等学校への出前授業（職業教育）を実施している
- ・学生寮の整備、希望者には入学時に斡旋を行っている
- ・退学者に対するアンケートを実施、今後の学校運営に役立てている
- ・文部科学省委託事業として「ももいく」の設置を法人として行っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

卒業生の勤務先訪問（卒業生の状況把握）の実施は現場としてもフォロー体制について安心感がある。
高校生への保育・教育業界への印象の低下を感じているので、養成校からの高校生へのアプローチに関して協力できる事は行っていきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

・災害を想定した訓練の実施内容、頻度(地震、火災、津波)

※現段階では、津波による被災の可能性は低いと想定されている

③ 今後の改善方策

・ホームルームにて避難訓練の意義や必要性を伝達

・後期に避難訓練経路の確認等を含め実践型での訓練を行う

③ 特記事項

・災害時の備蓄に関しては、適切量を設置済み

・図工室、キッズルーム(別館)の設置等、昨年度から更なる施設充実を図っている

・今年度はロサンゼルスへの海外研修を実施(任意参加)

④ 学校関係者評価委員会コメント

避難訓練を自分たちで考えさせ行動する事は一番身近でスキルがいる内容である。

また、地域性を知ることにもつながる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・高校側に対して学校理解をいただき、業界や専門学校の状態に理解をいただく
- ・18歳人口の減少に伴い、募集対象の幅を広げ学生募集を行っていく必要がある

② 今後の改善方策

- ・入学相談室と連携し、在校生状況の詳細を伝えていく
- ・社会人にも募集ターゲットを広げ、再進学者へ向けて国家資格の重要性や業界の魅力を伝えていく
- ・オープンキャンパスにて、在校生から実践型授業・クラス制授業の意義を伝えていく

③ 特記事項

- ・奨学金を利用した学費応援制度の案内、保育科に関しては修学資金の案内を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

高校生への保育・教育業界への印象の低下を感じており、養成校からの高校生へのアプローチに関して協力できる事は行っていきたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方策

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

更なる法令順守の推進

② 今後の改善方策

会議や掲示物等を通じて全教職員の法令順守に対する啓蒙を継続的に図る

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

定期的に校舎及び施設を開放して、生徒と教員が「子育て支援」を実践している。

② 今後の改善方策

子育て支援、ボランティア、公共職業訓練における委託訓練等の実施を継続して行なっていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

学生のうちから地域貢献への意識が高まる

地域活動として、子どもだけでなく高齢の方々もご参加いただき、地域で見守る・育てていく活動の実施を推奨する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果は概ね問題ないが、細部までしっかりと点検・確認し、地域や業界から必要とされる学校になるために課題を把握し、学校運営をしていく必要がある。

平成29年度でも引き続き、下記を取り組んでいく。

- ・目標や計画を具体的に設定されているように感じるため、継続的により良い学校創りに努める
- ・教育理念にある教育に一層力を入れ努める。
- ・就職支援(在学・卒業後)、検定・資格合格率向上、退学率低減により努める。